

四極会職域交流会

日時：令和元年7月24日 18:30～

場所：大分市府内町 大分センチュリーホテル

令和元年度職域交流会が開催された。

大分支部が、大分支部に属する職域企業その他、大分市内に7つある職域支部に声をかけて毎年実施している。主に20代から50代まで、現役バリバリのサラリーマン会員が集まって親睦を深める。同じ大分市内で勤務していても職場の違う同窓生との交流の機会は少なく、開催を楽しみにしている会員も多い。本年度は15の企業や官庁から49名が参加した。

参加企業等

- ・職域支部：大分県庁、大分市役所、大分銀行、豊和銀行、大分合同新聞社、大分大学
- ・職域支部：オーイーシー、大分県信用組合、大分トヨタ自動車、佐伯建設、テレビ大分、トキハ、豊後企画集団、JR大分シティ、福岡銀行

交流会は高野浩子副支部長（大34）の軽妙な司会によって進められた。

初めに高井支部長（大21）から交流会の意義等に触れた主催者挨拶。続いて御来賓の石川公一四極会会長（大13）から簡潔なご祝辞を頂いた。乾杯の音頭は職域企業を代表してテレビ大分の四極会幹事をされている工藤晴久さん。笑いをとりながら会の雰囲気盛り上げた。



懇親会は、世代の近い人が同席になるように配された7つのテーブルに分かれて進められた。同じテーブルには同一職場の会員はいない。若い会員ほど初対面の人が多く、方々で名刺交換する姿も見られた。時間の経過とともに寛いだ雰囲気になり、談笑の輪が広がった。



終盤になり、各職域の PR タイム。それぞれ代表が壇上に立って自己紹介や業務の案内、職場四極会の活動状況、四極会員としての抱負など自由にスピーチした。2分の制限時間を超過してしゃべる人、どんぴしゃり 120 秒におさめる人、新採用職員、ベテラン社員と多種多様なスピーチに会場が湧いた。

スピーチした会員

安部舞 (大 58・大分県庁)、園広徳 (大 47)・吉田昌信 (大 48)・松田伸司 (大 48)
(以上大分市役所)、由川賢治 (大 39・大分銀行)、黒田宇一郎 (大 64・豊和銀行)、小林滋 (大 52・大分合同新聞社)、竹内三太郎 (大 32・大分大学)、片山達郎 (大 66・オーイーシー)、外園健人 (大 53・大分県信用組合)、矢野雅俊 (大 61・大分トヨタ自動車)、相良剣乃介 (大 47・



佐伯建設)、安東一也 (大 31・テレビ大分)、葛城雅浩 (大 31・トキハ)、小川史佳 (大 66・豊後企画集団)、西田遥香 (大 67・JR 大分シティ)、平松毅一郎 (大 42・福岡銀行)

最後には、やっぱり校歌、逍遙歌だということになり、急きょ歌詞を配布して全員で斉唱。若い会員の中には初めて聴いたという人もいた。ほぼ全員が上野丘時代を知らない世代で、歌詞に愛着を持ってと言われても無理なようだった。

締めは、今年度新たに大分支部副支部長に就任した仲道伸一さん(大 26)。四極会活動にかける思いを語って三三七拍子で締めくくった。



なお、会場で四極会事務局の大園広子会員（大 34）が持ち回った 100 周年募金箱には 2 万 3,670 円の浄財が寄せられた。

参加者の募集にご尽力いただいた職域支部、職域企業の役員の皆さん、会場の設営、受付、進行に当たられた大分支部役員の皆さん、ありがとうございました。

